

2007  
春号



ハクモクレン



イワカガミ



フクジュソウ

コアニチドリ



ギョウジャニンニク



エゾエゴサク



ショウジョウバカマ



ノアザミ



ミスミソウ

リュウキンカ

写真提供：自然観察指導員 越前 久さん(秋田市)

## 目次

「秋田環境優良事業所」新たに10事業所認定！ .....	2
でんきを消して、スローな夜を。 .....	4
トピックス .....	5~7
会員活動紹介 大森建設(株).....	7
「不都合な真実」秋田市で上映決定！ .....	8
お知らせ .....	8



# 「あきた環境優良事業所」 新たに10事業所認定！

平成18年度第4回理事会ならびに第2回あきた環境優良事業所認定審査会を2月21日（水）午後1時30分から秋田市の遊学舎で行いました。

## <第4回理事会>

理事会では、今年度事業経過報告、次年度事業計画、次年度総会、認定審査会の要綱、新規理事等の案件が検討されました。

今年度事業のうち、秋田県地球温暖化防止活動推進センター事業では、温暖化防止紙芝居を製作し、地球温暖化防止活動推進員へ貸し出すことにしています。チーム・マイナス6%を参考に「マイ、ナス、ロク」の3匹のウサギがオンダシカヤシキをエコハウスに変えていく物語になっています。

次年度温暖化防止センター事業について

次年度事業計画では、事務局からエコドライブキャンペーンを提案しました。全国センター開催の推進員交流会の情報によると、エコドライブの効果は目に見えにくいという意見や自家用車が増加し影響が大きいことから、やってみることが大事だという意見、あるいは、エコドライブの手法を周知する影響で、交通安全上の問題点につながり、事故のもとになる可能性もあるので留意すべきという意見もありました。

今後、急加速急発進等の講習を主体に他の団体などとタイアップすることも視野に入れて相乗効果を上げる事業内容を検討します。

ミニISO制度について

「あきた環境優良事業所認定制度」にステップ3（S3）を創設するか否かについては、環境省主導の環境マネジメントシステム「エコアクション21」を導入することが適当という意見が多く出されました。また、検討課題が多く、それらを整理し、次回理事会で検討することになりました。

また、審査会は、これまで理事会と一緒に年2回開催していましたが、理事会と分離してスリム化し、専門性とレベルアップを目指して必要に応じ開催することになりました。

平成19年度総会について

平成19年度総会は、4月21日（土）の午後、遊学舎で開催と決定しました。2月の審査会で新たに認定された「あきた環境優良事業所」の皆さんへの認定証交付を、この総会の場で行うことになりました。

また、今年は大潟村で行われるワールド・ソーラーカー・ラリーが15年目を迎えるということで、大会に長年かかわっていらっしゃる東海大学の木村英樹教授の講演を行います。



理事会の様子

す。詳細は8ページに。

新理事について

前年の総会時から理事数が1減になっておりましたが、あきた環境優良事業所認定審査員の工藤兼勝さんを理事にという声があり、理事会満場一致で総会に推薦することに決定しました。

## <認定審査会報告>

平成18年度第2回「あきた環境優良事業所認定審査会」では、菊地英治県立大学准教授、工藤兼勝審査員を加え審査した結果、新たに以下の10事業所がステップ1に申請、認定されました。

1. (株)秋田魁新報社：秋田市
2. メカニックフロンティア(株)：にかほ市
3. にかほ市観光開発(株)：にかほ市
4. (株)佐々木栄商店：にかほ市
5. ラ ヴィオーラ：にかほ市
6. (有)佐藤建築工房：にかほ市
7. IP-HITO (アイピー・ヒト)：にかほ市
8. 板垣理美容室：にかほ市
9. 山卯建設工業株：にかほ市
10. (有)長沼製作所：にかほ市

秋田市の(株)秋田魁新報社と、にかほ市の9事業所について工藤審査員から審査報告があり、審査の結果、10事業所ともステップ1に認定されました。

新聞社の申請については、自社の取り組み内容を発信することで秋田県内にその動きが広がることが期待されます。

今年1月に、にかほ市と共催の環境マネジメントシステム説明会を開催（説明担当：工藤審査員）、24事業所の参加がありました。その中の9事業所が今回の認定審査に上程されました。にかほ市の環境配慮への意識の高さには敬意を表します。

申請内容について、美容室や理容室などの店舗にアイドリリングストップステッカーや環境関連パンフレットを常備し、自らの取り組みのほか来店者へ働きかけるといった広がりも見られます。独自技術の省エネ住宅設計、土木工事のゼロエミッション構想、観光施設から地産地消の発信、再生資源業務のリサイクル分別徹底などのほか、にかほ地区ならではの天然ガス利用によるCO<sub>2</sub>排出削減など評価すべき点が多い審査会となりました。



優良事業所の認定審査

# あきた環境優良事業所

平成19年2月21日認定

取組目標	取組内容・方法
<b>株式会社 秋田魁新報社</b>	
電力消費の抑制に努めます	・業務中には必要個所以外の電力節電を心掛け、冷暖房は弱めの設定にするよう社内の啓発活動を推進します。 ・不要な照明の消灯に努めます。
紙ごみの減量化に努めます	・片面しか使用されていない紙の裏側を再利用します。 ・会議用資料の簡素化により紙の使用量の削減に努めます。
エコドライブの推進に努めます	・空ぶかし、急発進、急加速をいたしません。 ・最短距離での計画的ドライブを行います。 ・定期的な点検整備に努めます。
エコ製品の活用を努めます	・商品購入の際には価格のみではなく、環境への負荷も比較検討し、長期的な観点で選択し購入します。
環境保全活動を推進します	・事業所敷地内の清掃、整理・整頓に努めます。

<b>メカニックスフロンティア株式会社</b>	
省エネルギーの推進	・昼休み時には食堂等の電気以外は消灯する
ごみの減量化、リサイクル、適正処理	・内部資料は、使用済みの用紙の裏紙を使用する
環境に配慮した製品の使用	・コピー用紙、名刺、トイレットペーパー等は再生紙のものを使用する
環境保全活動の推進	・環境保全の必要性を全従業員に訴える5S委員会を設置し、定期活動を行う

<b>にかほ市観光開発株式会社</b>	
省資源・省エネルギーの推進	・最大限に天然ガス・天然温泉を利用します。 ・使用しない電気器具は、コンセントからプラグを抜き、待機電力防止に努めます。 ・冷暖房の温度管理を適切に行います。
廃棄物の排出抑制・リサイクル適正処理	・厨房のゴミは地域の分別方法に従い、廃棄物とリサイクル物に分別します。 ・生ゴミは水分の除去や減量化に努めます。 ・紙の使用量削減のため、裏紙の使用や両面コピーを活用します。 ・秋田県のアイドリングストップ運動に参加し環境性、経済性を高め効果的な地球温暖化対策に努めます。 ・車購入時は、エコカーを購入するよう努めます。
環境に優しい自動車の使用	・エコマークが付いた環境に配慮した製品を優先的に購入、使用します。(平成18年12月文房具費等の購入の73%がグリーン製品)
グリーン購入	・事業所敷地内の清掃、整理・整頓に努めます。 ・クリーンアップ運動など、環境保全活動に積極的に参加し、環境保全の大切さを全員で再確認します。

<b>株式会社 佐々木栄商店</b>	
省エネルギーの推進	・昼休み、休憩時には消灯します。 ・冷暖房の温度管理を適切に行い節電に努めます。
ゴミ減量化とリサイクルによる適正処理	・メモ用紙等に使用済みの裏紙を利用します。 ・ゴミの保管には密閉容器を使用します。 ・紙コップ等を使わず、個人用のコップを使用します。 ・ゴミの分別は市の分別方法に従い行います。
環境に配慮した自動車の使用	・急発進や空ぶかしをしないよう運転に配慮します。
環境に配慮した製品の使用	・コピー用紙、名刺、トイレットペーパー等は再生紙を使用します。 ・リサイクル製品を優先的に使用します。

<b>ラ ヴィオーラ</b>	
日常業務において省エネルギーに努めます	・冷暖房の温度管理や電気製品の使用しない時、電源を切る等節電に努めます。 ・冷暖房は終業時30分前には電源を切ります。
ゴミの減量化とリサイクル分別	・ペットボトル、ビン、金属の分別に努めます ・封筒、使用済用紙の裏側の再利用
環境に配慮した製品の使用	・コピー用紙、トイレットペーパー等は再生紙を使用します ・エコマークのついた製品の購入に努めます
地域の環境保全に努めます	・環境保全の必要性をスタッフに訴えます ・サロ周辺の清掃、整理、整頓に努め、植栽もしています
お客様へのアピール	・アイドリングストップの掲示、シールを差し上げる ・待ち合いに環境問題のパンフレットを常時置くこと

<b>有限会社 佐藤建築工房</b>	
省エネルギーの推進	・昼休み休憩時には、食堂等の電気以外は消灯します。 ・冷暖房機は、終業時30分前にはスイッチを切ります。 ・工場の空調設備のファンや蛍光灯を定期的に掃除します。
ゴミの減量化とリサイクルによる適正処理	・郵便物の用紙、封筒やチラシの裏紙を利用します。 ・内部資料には、使用済み用紙の裏紙を使用します。
環境に配慮した製品の使用	・コピー用紙、名刺、トイレットペーパー等は再生紙使用のものを使用します。 ・エコマークが付いた環境に配慮した製品を優先的に使用します。 ・電化製品、社有車等を買換える場合には、省エネ型製品を優先的に購入します。
環境保全活動の推進	・環境保全の必要性を全従業員に訴えます(教育訓練) ・マニフェスト等の記録文書を管理し、廃棄物の量を監視します。

<b>IP-HITO (アイピー・ヒート)</b>	
省エネルギーの推進	・不在時の消灯 ・冷暖房の温度管理(冷房29、暖房20 前後)
ゴミ減量化とリサイクルによる適正処理	・再生紙の使用 ・使用済み用紙の裏紙使用 ・リサイクルトナーの販売推進 ・インクジェット用インクのリサイクル推進 ・廃ダンボールの再使用
環境に配慮した自動車の使用	・省燃費添加剤の使用(15%の燃費向上) ・アイドリングストップの推進 ・運転方法の配慮(発進、加速時の配慮)
環境に配慮した製品の使用	・リサイクル製品の優先使用

取組目標	取組内容・方法
環境保全活動の推進	・エコマーク製品の優先使用 ・環境保全活動への参加 ・事業所敷地内の清掃、整理整頓
<b>板垣埋美容室</b>	
省エネルギーの推進	・冷暖房の温度管理を適切に実施する。(冷房28、暖房20) ・使用しない電気器具は、電源から抜き待機電力削減に努める。 ・空調フィルターやファン及び蛍光灯はこまめに掃除し効率を良くする。
ゴミの減量化とリサイクルによる適正処理	・湯沸かし器などは使用しない時はこまめに元栓を切る。 ・郵便物の用紙、封筒やチラシの裏紙を再利用する。 ・ダンボールは廃棄しないで一定量まで保管しリサイクル材料とする。 ・生ごみは生ごみ処理機で堆肥化し排出を抑制する。 ・資源ごみは分別を徹底し保管し資源回収時に出す。(ペットボトル、アルミ缶、スチール缶、ガラス瓶、新聞、雑誌、ダンボールなど) ・洗剤、化粧品は詰替え容器の製品を購入し、容器廃棄物の発生を抑制する。
環境に配慮した自動車の使用	・アイドリングストップを励行し燃費向上に努めます。 ・省エネ運転に心がけ、不要な自動車の運転を手控えます。 ・秋田県のアイドリングストップ運動に参加し燃費向上に努めます。
環境に配慮した製品の使用	・エコマークが付いた環境に配慮した製品を優先的に使用する。 ・リターナブル製品があるものは優先的に購入する。 ・可能な場合、グリーン購入法適合品を購入する。 ・パーマ、カラー、シャンプー液などは、人体及び環境に優しいものを使用する。
環境保全の推進	・近隣の清掃・ごみ出し、クリーンアップ、除雪等に協力・参加する。 ・環境保全活動、自治体やNPOが主催する環境教育等に参加する。
その他	・店内にアイドリングストップステッカーを常備し、必要な顧客へ配布する。 ・環境関連のパンフレットを店内に常備し、閲覧に供する。

<b>山仰建設工業 株式会社</b>	
省エネルギーの推進	・冷暖房の温度管理を適切に実施する。(冷房28、暖房20) ・使用しない電気器具は、電源から抜き待機電力削減に努める。 ・冷暖房機は、終業時30分前にはスイッチを切り節電に努める。 ・昼休み及び休憩時には、使用していない電気は消灯する。 ・空調フィルターやファン及び蛍光灯はこまめに掃除し効率をよくする。
ゴミの減量化とリサイクルによる適正処理	・OA機器はエコタップに接続し帰宅時には電源を切ります。 ・湯沸かし器などは使用しない時はこまめに元栓を切る。 ・内部資料には、使用済み用紙の裏紙を活用する。 ・複数ページの印刷物は、両面印刷を行う。 ・郵便物の用紙、封筒やチラシの裏紙を再利用する。 ・コピー使用枚数の管理を行い削減に努める。 ・ダンボールは廃棄しないで一定量まで保管しリサイクル材料とする。 ・資源ごみは分別を徹底し保管し資源回収時に出す。(ペットボトル、アルミ缶、スチール缶、ガラス瓶、新聞、雑誌、ダンボールなど) ・詰め替え容器の製品を購入し、廃棄物の発生を抑制する。 ・産業廃棄物は適法に処理し、法令順守(コンプライアンス)に徹する。
環境に配慮した自動車の使用	・アイドリングストップを励行し燃費向上に努めます。 ・省エネ運転に心がけ、不要な自動車の運転を手控えます。 ・秋田県のアイドリングストップ運動に参加し、燃費向上に努めます。 ・自動車運行を記録し必要外の使用を差し控えます。
環境に配慮した製品の使用	・エコマークが付いた環境に配慮した製品を優先的に使用する。 ・可能な場合、グリーン購入法適合品を購入する。
環境保全活動の推進	・環境保全の必要性を全従業員に訴える(教育訓練) ・マニフェスト等の記録文書を管理し、廃棄物の適正処理を監視する。
その他	・環境関連のパンフレットを店内に常備し、閲覧に供する。

<b>有限会社 長沼製作所</b>	
日常業務における省エネルギーの推進	・冷暖房の温度管理を適正に実施する。(冷房28、暖房20) ・冷暖房機は、終業時30分前にはスイッチを切り節電に努める。 ・使用しない電気器具は、電源から抜き待機電力削減に努める。 ・OA機器はエコタップに接続し帰宅時には電源を切ります。 ・昼休み及び休憩時には、使用していない電気は消灯する。 ・空調フィルターやファン及び蛍光灯はこまめに掃除し効率をよくする。
廃棄物の排出抑制、減量化、リサイクル及び適正処理の実施	・湯沸かし器などは使用しない時はこまめに元栓を切る。 ・内部資料には、使用済み用紙の裏紙を活用する。 ・使用済み用紙、コピー用紙等は、紙類回収に回す。 ・資源ごみは分別を徹底し保管し資源回収時に出す。(ペットボトル、アルミ缶、スチール缶、ガラス瓶、新聞、雑誌、ダンボールなど) ・業務で発生する産業廃棄物(特に金属廃棄物)は分別を徹底しリサイクルに回すとともに廃棄物の発生を抑制する。 ・産業廃棄物は適法に処理し法令順守(コンプライアンス)に徹する。
環境に配慮した自動車の使用	・アイドリングストップを励行し燃費向上に努める。 ・秋田県のアイドリングストップ運動に参加し燃費向上に努める。 ・次回に自動車を購入する際は、省エネカーを考慮する。 ・コピー用紙、名刺、トイレットペーパー等は再生紙使用のものを使用する。
環境に配慮した製品の使用	・エコマークが付いた環境に配慮した製品を優先的に使用する。 ・可能な場合、グリーン購入法適合品を購入する。
環境保全活動の推進	・環境保全の必要性を全従業員に訴える(教育訓練) ・5S委員会を設置し、定期的・継続的な活動を行う。 ・近隣の騒音対策、クリーンアップ、除雪等に協力・参加する。 ・環境保全活動、自治体やNPOが主催する環境教育等に参加する。

# でんきを消して、スローな夜を。 ～100万人のキャンドルナイトinあきた2006特集～

世界中で行われているキャンドルナイトは、夏至と冬至の夜2時間、電気を消してキャンドルの灯りで過ごしてみようというイベントです。普段は忙しく暮らしている私たちに、ふと立ち止まる時間が必要なのかもしれません。

2006夏至は、平成18年6月18日(日)JR秋田駅前アゴラ広場で約100人の方々とキャンドルの灯りのもとでショーや音楽、トークなどを楽しみました。

初めのクールビズファッションショーでは、会場のお隣、秋田西武店とイトーヨーカドー社員の5名の方を皮切りに、県庁職員、秋田市職員など、総勢20名のステキな男性モデルが勢ぞろい。お一人だけネクタイ着用の秋田西武のモデルの方は、当日の夜10時からサッカーワールドカップ日本対クロアチア戦が行われることもあり、侍ブルーの夏用ネクタイで参加。ある意味、気合の入ったクールビズでした。県庁や市役所職員の皆さんは、やはりノーネクタイは圧迫感が少なく、暑い日は仕事がしやすいと話していらっしゃいました。

予定では、暗くなるころを見計ってキャンドルに火を灯すはずでしたが、あいにくの小雨と風のため、つけても、つけても火が消える状況で、参加された子供たちや皆さんに点灯係りとして活躍していただきました。

すっかり日が落ちてから、劇団プロデュース 加賀屋淳之介さんとイラストレーター 相原ちひろさん、そして司会の永田さんのエコライフトークです。仕事柄、紙を多く使う相原さんは両面印刷などでエコにこだわっているということです。アロハに短パンという加賀屋さんは、クールビズモデルとしても登場するべきだったと会場の笑いを誘いました。

小雨が降っていたので、最後のジェンベと呼ばれるアフリカンパーカッショングループ「しえぎしえぎ」は、テントの中で演奏していただきました。グループのメンバーによるストリートダンスに、飛び入りのダンスパフォーマンスも飛び出し、会場を魅了しました。

アフリカンドラムで大いに盛り上がったところでキャンドルナイト終了となり、残ったキャンドルは参加者持ち帰り、自宅などでそれぞれの「キャンドルナイト」を楽しんでいただくことになりました。

この日は夜8時～10時まで環境省が呼びかける「ブラックイルミネーション2006」が実施され、秋田県内で41施設でスポットライトなどが消灯され、こちらは「デンキを消して、静かな夜を。」のコンセプトでした。デンキを消したスローで静かな夜をたくさんの方に味わっていただきたいものです。

また、2006冬至は12月22日(金)午後6時30分から2時間、秋田市大町のギャラリー・ココロボラトリーで「100万人のキャンドルナイトinあきた2006冬至」に約60名が集い、キャンドルのやわらかな灯りのもと、楽しい時間を過ごしました。

初対面の方も多いため、初めに動物当てのネイチャーゲームでアイスブレイクです。背中の動物カードを他の人に見せてヒントをもらい正解だと一抜け!というゲームです。知らない相手からでもヒントをもらわないと自分の背中の動物がわからないので、引っ込み思案の秋田県人でも盛り上がりま

す。心と体に美味しいマクロビオティックのFood Box(玄米ごはん、玄米粉のクリームスープ)で温まりながら、工芸に打ち込んでいる作家の方々の「スローライフトーク」をうかがいました。

## <作家の皆さん>

- 小牟禮 尊 人(こむれ たかひと)さん(ガラス工芸)
- 鎌田 祥子(かまだ しょうこ)さん(ガラス工芸)
- 高橋 朋子(たかはし ともこ)さん(手すき和紙工芸)
- 茂木 圭子(もてぎ けいこ)さん(陶芸)
- 渡部 千鶴(わたなべ ちづる)さん(陶芸)

修行時の経験、ものづくりに対する姿勢、文化として残したいという作家の皆さんのお話は、大量生産大量消費の生活とは一線を画し、ライフスタイルを考えさせられるものでした。

オーガニックコーヒー、穀物コーヒーやナチュラル素材のビスコッティーで幸せ気分になったところで、コロンビアからお嫁に来て、すっかり日本語も堪能な佐藤ピエダさんのコロンビア舞踊が始まりました。会場から飛び入り参加もあり、サルサのステップは全員参加で足がもつれながらも多に楽しみました。

フィナーレは、ピエダさんも加わってフォルクローレ演奏のロスチャルコスさんのライブ演奏です。尺八にも似た音色の笛や、どこかなつかしい感じの楽器で、コンドルは飛んでいく、花祭りなど、なじみの深い曲にうっとり。キャンドルナイトをきっかけに、一人ひとりの思いを抱いた「くらやみのウェーブ」が広がることでしょう。

関連イベントで、自宅でキャンドルナイトを楽しんでいただきました。ホームページにその様子を掲載してありますので、ごらんください。



エコライフトーク中も子供たちが点火係



クールビズで県庁職員勢ぞろい



秋田西武店とイトーヨーカドーのクールビズモデルの皆さん



市役所職員もクールビズです

6月18日



ロスチャルコスさんのフォルクローレ



流木アートとキャンドルのコラボ



背中の動物はなに?



工芸家の皆さん スローな生活って...

12月22日

**クイズ** 2 秋田県で、一人が一日に出すごみの量は何グラム?  
約1,000g 約1,500g 約1,800g

## 美郷町で「ミニISO」説明会

平成19年3月16日(金) 旧六郷町、千畑村、仙南村が合併し誕生した美郷町で町と当法人共催の「あきた環境優良事業所認定制度(ミニISO)」事業者向けの説明会を行いました。

六郷地区の学友館2階学習室を会場に、町内の事業所9社にお集まりいただき、地球温暖化対策、環境関連法、事業所の省エネやリサイクル推進について、制度審査員の工藤兼勝さん(環境カウンセラー・秋田県地球温暖化防止活動推進員・ISO審査員補)が、事業者としての責務、対策の必要性などについてパンフレット等を使いながらわかりやすい説明を行いました。

地球温暖化の影響による異常気象頻発や鉱物資源の枯渇が引き起こしている金属類の盗難事件、現在の人口維持だけでも石油資源は50年もたず、さらに人口増加による食料不足も

目に見えているという現実を思い知らされました。

決して他人事ではなく、このままの生活様式を続けてはいけないこと、事業所が率先して取り組み、それが働く人たちに広がっていくことが重要であるため、まずは光熱水費やガソリン使用量など環境負荷の把握をし、できることから目標を持ってエネルギーの削減に努めることが必要と説明しました。

「あきた環境優良事業所認定制度(ミニISO)」取組事業所では、年間10%以上のエネルギー削減を達成している事業所も多く、美郷町でもこうした取り組みが広がり美しい郷を守りつなげてほしいと思います。



美郷町説明会で

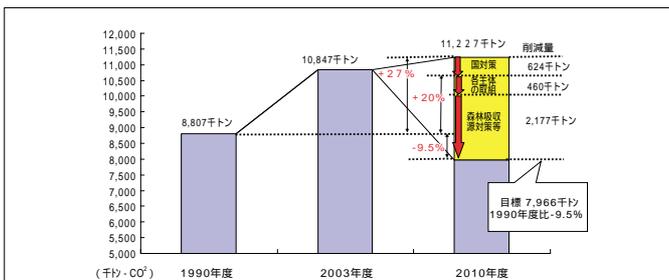
## みんなで地球温暖化対策を!

地球温暖化対策としての京都議定書約束期間が2008年から始まります。秋田県としての取り組みを検討し、実効性の伴った対策を進めていく必要があります。

秋田県の現状を認識し、みんなで地球温暖化対策に取り組みましょう。まずは、省エネ、エコドライブ、それともごみの減量...

### 秋田県地球温暖化対策地域推進計画

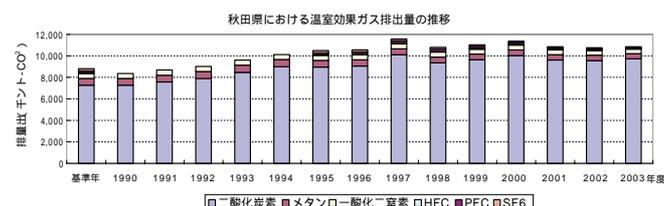
2005年(平成17年)2月の「京都議定書」の発効や、同年4月の「京都議定書目標達成計画」の閣議決定などを踏まえて、県では、「温暖化対策 美の国あきた計画(平成11年3月)」を見直ししています。新しい計画は「秋田県地球温暖化防止地域推進計画」として平成19年3月の策定予定です。



新計画の削減目標は、京都議定書の基準年度の1990年度に比べて、二酸化炭素の排出量は、6%削減  
2010年度における温室効果ガスの排出量を9.5%削減  
削減目標は、平成19年1月19日のパブリックコメント募集時点のものです。

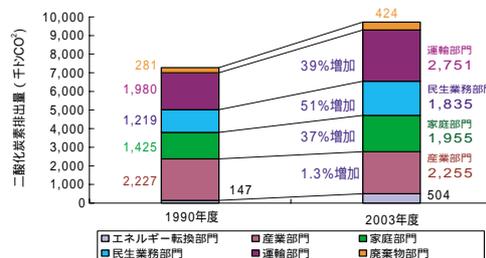
### 秋田県の温室効果ガスの排出状況

2003年度の温室効果ガスの総排出量は、10,847千トン(二酸化炭素換算)で、京都議定書の基準年(1990年)の8,807千トンと比べて23.2%増加しています。



また、温室効果ガスのうち二酸化炭素の排出量は、基準年度に比べて33.6%増えています。全国では12.3%の増加ですから、秋田県では全国を大きく上回って増加しています。

産業部門は、基準年度に比べて1.3%の増加ですが、家庭部門では37.2%、民生業務部門(第3次産業部門)では50.5%、運輸部門(乗用車、トラックなど)では38.9%と大幅に増加しています。

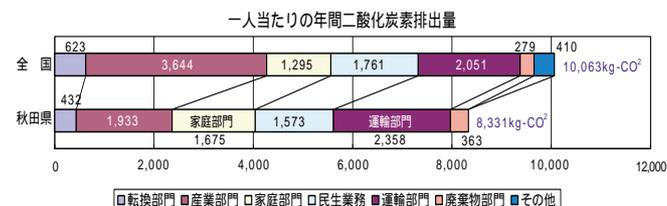


### 一人当たりの二酸化炭素排出量

一年間の一人当たりの二酸化炭素排出量は、全国10,063kg、秋田県8,331kgと17%少ないですが、家庭部門では全国の1,295kgに対して秋田県は1,675kgと29%ほど多く、運輸部門でも全国2,051kgに対して秋田県は2,358kgと15%ほど多くなっています。

### 家庭の省エネルギーやエコドライブで、二酸化炭素の排出量を削減

雪国の秋田県では、暖かい地域よりも暖房等のエネルギー消費が多くなりますので、住宅の断熱化によって大きな省エネ効果が得られます。また、節電(待機電力をカットする)や冷房温度を28、暖房温度を20にするなど、家庭での省エネの実践や、アイドリング・ストップ、急発進・急加速などをしない「エコドライブ」の実践など、県民一人ひとりの取組を促進して、二酸化炭素の排出量を削減しなければなりません。



**クイズ 2** 秋田県で、ごみ処理にかかる費用は、一年間でいくら?  
約100億円    約120億円    約140億円

## 秋田の未来を支える森林



小林一三教授



熱心に聴講

「松くい虫被害木炭焼きプロジェクト」を牽引してきた秋田県立大学生物資源科学部の小林一三教授の退職記念講演会「秋田の森林を語る」が平成19年3月3日（土）秋田市の明徳館ビルで行われました。

同学部が定期的に行っている森林科学セミナーの一環で、小林教授の最終講義「秋田の未来を支える森林」を関心のある一般の方々にも聴講してもらおうと学外で開催されたもので、秋田経済同友会との共催。定員200人の会場いっぱいに聴講者が参加し、松くい虫被害撲滅に情熱を注いだ小林教授の退職を惜しむ声が聞かれました。

### <プログラム>

1. 「秋田の森林を巡る最近の動き」福井敬二さん（秋田県農林水産部森林整備課森林保護班）
2. 秋田県立大学森林科学講座卒業研究より
  - 1) 森林科学講座での卒業研究内容紹介  
 蒔田明史准教授（県立大学森林科学講座）
  - 2) 夕日の松原におけるマツノマダラカミキリの産卵時期  
 小原祐太さん（森林科学講座4期生）
  - 3) マツ材線虫病年越し枯れ木におけるマツノザイセンチュウの材内分布と消長

- 吉田麻美さん（森林科学講座5期生）  
 3. 最終講義「秋田の未来を支える森林」 小林一三教授

はじめに県森林整備課の福井さんから秋田県土の7割を占める森林の整備や保護について、持続可能な森林経営を目指して行っているという説明がありました。

蒔田准教授から、森林科学講座での研究対象についての説明があり、その後、森林科学講座の4期生、5期生のお二人が秋田の松くい虫被害に関する専門的な卒業研究発表を行いました。県立大秋田キャンパスに隣接した炭焼き小屋で、顔を真っ黒にし、へっぴり腰でチェーンソーを握って作業していた学生の皆さんの姿を思い出しました。

最終講義では、寒冷地での特異性を考慮、マツヤニが滲出しなくなった被害木などを目安にカミキリ虫のいる木だけを伐採する秋田方式で微害状態を維持することが重要と、8年間の松くい虫被害の研究について述べられました。

生物資源は、再生可能な資源であり、しっかりした元本であれば利息は使っても減らないと、わかりやすく説明。エネルギーを大量消費し、夜の地球で煌々と輝く今の先進国は、人類の目指すべき姿ではない。秋田の将来にとって、森林をはじめとする自然環境が大きな力となるだろう。「時と豊かに暮らす秋田」人、風土、文化を大切に自然との安定した関係を築いていくべきと力説されました。地に足の着いた暮らし...という言葉思い出さず最終講義でした。



県森林整備課  
福井さん



4期生の小原さん



5期生の吉田さん

## ごみって多いネ！



これから学習会を始めます

平成19年2月1日（木）秋田市中央公民館による女性学級として、市民憲章推進協議会の環境保健部長でもある秋田県地球温暖化防止活動推進員・若松ナミさんが話題提供し、秋田市泉学区の同協議会女性部学習会を行いました。開催場所は、ウェルビューいづみ「交流プラザ」。

泉学区にお住まいの女性会員約30名が参加し「ごみについて」のグループ討議を行い、家庭の温暖化対策、だれでもできるごみ減量とリサイクルについて話し合いました。

まずはじめに、若松さんが泉地区「ごみ集積所実態調査結果」について、42%に資源ごみが混入していて、分別がまだ徹底されていないことや生ごみが多いこと、一世帯あたりのごみの量が多いという報告をし、地球温暖化対策で何ができるか、ごみを減らすことはだれでもできるという話題を提供しました。

その後、参加者は「生ごみ」「紙類」「プラ類・レジ袋」の

3グループに分かれて話し合いました。若松さんのほか、秋田市の推進員・朝倉孝子さんと高村も参加し、ごみって多いね...減らすためには...と知恵を出し合いながら和やかな学習時間となりました。

グループ討議を経て、最後にそれぞれの班のまとめを発表し、目からうるこの学習会となったようです。

生ごみ班では、水切りを徹底することから発展し、EM菌による堆肥づくりをやってみようという提案がありました。

紙類班では、分別回収時にビニール紐を使うと再利用の工程で邪魔になること、レシートやお菓子の箱などの「バラ紙」も資源なんだという確認があり、プラ類班では、できるだけトレイのない商品を買うことがごみ減量につながり、レジ袋・お豆腐のパックなどは再利用してから捨てるという提案がありました。

この学習会に参加した方々のごみの量は、きつと減ったことと思います。



食材は丸ごと食べるといいのよ

## あきたの環境を考える集い2007

平成19年3月17日(土)午後1時30分から秋田市児童会館子ども劇場で平成18年度環境あきた県民塾修了証書授与式が行われました。

県生活環境文化部主催、県内3箇所で開催しているこの県民塾は、今年で3回目の修了生を輩出し、修了生は「あきたエコマイスター」として登録、それぞれが地域で環境保全活動のリーダーとして活躍しています。

平成18年度修了生は81名で、鹿角市の黒沢信廣さん、秋田市の大塚幸絵さん、大仙市の佐々木智子さんが3地区を代表して修了証書、登録証の授与、マイスタージャンパーの贈呈を受けられました。

県生活環境文化部 佐々木松彦部長からは、地球温暖化対策や八郎湖水質浄化、循環型社会の推進など山積する環境課題に行動者として協力をというメッセージがあり、当法人の山本久博理事長は、より高く飛ぶカモメは、より広く見渡すことができる、進むべき方向を誤らないためにもそうした見識を持った活動で本領発揮してくださいと祝辞を述べました。

既に活動しているエコマイスターの佐藤龍男さん(男鹿市)と渡邊司さん(湯沢市)から、地域での活動紹介があり、試行錯誤しながらも地元密着の活動を着実に広げている様子がよくわかりました。

(記念)特別講演は「花鳥風月の里山」と題し、俳優で日本野鳥の会会長・柳生博さんが講師を務められました。

NHK「生きもの地球紀行」出演や八ヶ岳での暮らし方、コウノトリやトキ復活プロジェクトなど多方面にわたっての活躍をもとに興味深いお話でした。

7人のお孫さん、そしてその子どもたちが暮らすであろう日本の将来のために、なつかしい里山の風景を取り戻す・農

業や化学肥料を使わない・冬でも田んぼに水を張るといった提案があり、鳥になったつもりで考えて、鳥から表彰状をもらえる秋田になってほしい、そのためにみんなでがんばろうとエールが送られました。

平成19年度環境あきた県民塾の申し込みも既に始まっています。一人でも多く仲間がふえればよいなと思っています。

お問い合わせは

秋田県生活環境文化部 環境あきた創造課  
tel : 018-860-1574 fax : 018-860-3881



修了生代表



エコマイスターの佐藤さん



エコマイスターの渡邊さん



県生活環境文化部佐々木部長



祝辞を述べる山本理事長

## 会員活動紹介

### 地元建設業者の環境への取組み

大森建設 株式会社

大森建設株式会社は、能代市に本社を置く地元総合建設会社で『郷土を愛し地域に尽くす』をスローガンに、お客様に信頼される品質の建設物を提供し、地域と共に発展する企業を目指しております。環境負荷の高い建設業ですが、建造物の維持管理を通じた排出抑制やリサイクル、環境配慮型製品の研究開発等に意欲的に取り組んでおります。

例として、老朽化した下水道管渠やビルの排水管を敷設替えることなくリニューアルし延命することで廃棄物の排出抑制が期待できる管渠更生の実施、同じく給水管でも老朽度に応じ、清掃やライニングおよび磁気処理など、なるべく敷設替えずにコストを抑えた維持管理方法の提案、なかでも磁気処理は、温泉配管のスケール付着改善として注目されており、温泉の多い県内での普及に力を入れております。

下水道管渠の更生工事は、環境に配慮した公共インフラの延命工法として県内でも認知され適用されてきました。今後はビル配管の延命工法を積極的に提案し普及する為、秋田市中通にある自社所有の「マグナスビル」において磁気処理装置を設置し、実証を行い、急速に赤錆が除去されることを確認、現在追跡調査中です。

これまでスラッジとして最終処分されていた建設現場からの余剰生コンの再資源化の研究開発や、秋田発の風力発電機として注目されている「新型マグナス風車」へ建設側面からの参画などを推進しております。

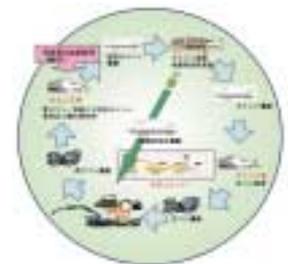
新型マグナス風車は、今年度4月からの販売が予定されており、設置から利用における提案型営業を展開し普及を促進しています。

今年度は、環境ISOの取得を目指し、全社的に環境意識の高揚を推進中。

〒016-0171 能代市河戸川字北西山48番地1  
TEL : 0185-54-3358 FAX : 0185-55-1470  
<http://www.om346.co.jp>



マグナス風車をビルの屋上へ(イメージ図)



コンクリートの循環システム(イメージ図)



## ゴミゼロ目指して情報交換

平成18年12月9日(土) 秋田市の遊学舎で「地域ごみゼロあきた推進会議」合同情報交流会が行われました。秋田中央、横手平鹿、湯沢雄勝の3つの地域ごみゼロあきた推進会議が一堂に介し、一般参加者、行政関係者を交え、体験発表、意見交換など、活発な情報交流会となりました。

### < 体験発表 > 敬称略

- ・ E M菌を利用した生ごみ減量実践活動：秋田市雄和地区婦人会 吉田ミチ子
- ・ 家庭生ごみの堆肥化と有機栽培野菜の直売活動：男鹿半島案内ボランティアの会 佐藤ミチヨ
- ・ 私の実践してきたごみの減量化：潟上市婦人会 小玉喜久子
- ・ 日常生活の中で実践しているごみ減量活動：大潟村婦人会 三村敏子
- ・ 山内地域における生ごみ堆肥化事業について：横手市山内地域局市民生活課 月沢毅 泉谷直樹
- ・ 生ごみの堆肥化によるごみ減量活動の紹介：羽後町消費者の会 鈴木尚

山内地域の堆肥化は「内城菌」で、他の地区は「EM菌」ですが、皆さん、堆肥化に取り組んでおり、その効果の素晴らしさ、生ごみの減量実感などを発表しました。花や野菜の生育に効果大で、EMボカシづくりの途中です出る活性液は水虫も治ったという例があるそうです。

また、ボカシで育てた有機野菜の直売所が地域の交流サロンとなり楽しみも増えたという発表がありました。

EM菌によるボカシづくりの先生である十文字町の熊谷さんは、美しい環境を次世代に残すために自分にできることは...と考えて、この活動に取り組んでいるということです。

意見交換会の中で、座長の千葉恵美子さんは「行政の取組も、ぜひ紹介を」と呼びかけ、大潟村の菅野さんや秋田市の佐藤さんが、行政の取組紹介をしました。市民活動が行政を動かすことも可能であり、連携の重要性が改めて認識された交流会になりました。

EMボカシが主眼となった交流会ですが、大潟村の三村さんからデポジットの提案がありました。ビール瓶のように購入時にピン代が上乗せになっているものは、ごみにはならず返却される。電化製品なども、その方式を導入できればごみにはならないという問いかけがありました。市場の論理では、単価が上昇するので難しいと思いますが、一つの考え方だと思えます。みんなで知恵を出し合って、「ごみゼロ」を目指したいものです。

### 「主催」

- 秋田中央地域ごみゼロ推進会議 (千葉恵美子 会長)
- 横手平鹿地域ごみゼロ推進会議 (鎌田勲一 会長)
- 湯沢雄勝地域ごみゼロ推進会議 (安部定亮 会長)



意見交換会座長の千葉さん



羽後町の鈴木さん



横手市山内地域局の月沢さん、泉谷さん



潟上市の小玉さん



秋田市雄和の吉田さん



大潟村の三村さん



男鹿の佐藤さん

## 「不都合な真実」秋田市で上映決定!

地球を愛し、子供達を愛する全ての人へ。アル・ゴアが半生を捧げて伝える人類への警告。人類唯一の故郷、それが今、危機に瀕しているのです。これは

人道的な問題なのです。それを解決するのは、あなたです。

日 時：平成19年4月28日(土)～5月11日(金) 4回上映/日  
場 所：JR秋田駅前 秋田フォーラス8Fシネマパレ  
鑑 賞 料 金：一般/1,700円 大学・高校生/1,400円 中学生以下/1,000円  
問い合わせ先：018-836-2990

## 平成19年度総会・交付式・講演のお知らせ

日時：平成19年4月21日(土)

午後1時30分～

- ・ 「あきた環境優良事業所」認定証交付式
- ・ 「あきた環境優良事業所」取り組み事例発表 (工又エス環境株式会社/ダイワ工業株式会社)

2時～

- ・ 講演「電気電子技術を駆使した省エネルギー技術」  
講師：木村英樹氏(東海大学工学部教授)

3時～4時・平成19年度総会



- 講演テーマ  
「電気電子技術を駆使した省エネルギー技術」
- プロフィール  
東海大学工学部電気電子工学科 教授  
東海大学チャレンジセンター推進室 室長  
日本太陽エネルギー学会 理事  
応用物理学会エネルギー・環境研究会 委員

半導体から太陽光発電までのエレクトロニクス技術に精通し、現在はエネルギー変換・貯蔵が専門。家電製品、パソコンなどの民生品からソーラーカーなどの特殊製品まで幅広くカバー。

## 新規入会企業・団体のご紹介

- ・ 大森建設株式会社 <http://www.om346.co.jp/>
- ・ 秋田マグナス協会 <http://www.akita21.com/magnus/>

- ・ 株式会社ヌノタニ <http://www.nunotani.tv/top.html>

## 入会について あなたも参加しませんか

会費

区分	社員	一般会員
企業・企業関係団体	1口：1万円 年1口以上	1口：1万円 年1口以上
個人・民間団体	1口：3千円 年1口以上	1口：1千円 年1口以上

会費納入について

秋田銀行 県庁支店 普通 560425 北都銀行 山王支店 普通 6099633  
郵便振替口座 02280-7-76146

いずれも特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム宛です。

なお、フォーラム通信送付の都合上、銀行振込の場合は事務局にご住所、お名前をご連絡ください。

未来の子供たちのために、秋田の環境をよりよくしていこうという活動の応援団です。当法人の活動やこのフォーラム通信発行のために会費を負担していただいています。

## NPO法人 環境あきた県民フォーラム 秋田県地球温暖化防止活動推進センター ACCCA

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 遊学舎(秋田県ゆとり生活創造センター)内  
TEL・FAX 018-839-8309 Eメール [mail@eco-akita.org](mailto:mail@eco-akita.org) ホームページ <http://www.eco-akita.org/>

ストップ! 温暖化

事務局から

春～は名～のみ～の...って歌が出てくる今日この頃の冬景色。

あの暖かい1月、2月は、いったい何だったんだろうね。ゴルフ場が営業して、スキー場が店じまい。ま、水不足も心配されるから雪が降るのもアリだけど。秋田県の家庭部門のCO2排出量は、結構な量、増えてるんだって。人口が減っても自家用車が増えるし、それに寒いと暖房は必要だし...

みんなで少しずつでも減らさなきゃ、ホント、10年後の秋田が暮らしやすいって保障はない。これを読んでくれた人が、もう一人に教えてあげてください。